

「逆向き設計」に基づいた指導案作成・授業実践

埼玉県立坂戸高等学校 スペイン語の実践例

和田 瞳（上智大学言語科学研究科 博士後期課程）

1. はじめに

高等学校では 2022 年度の入学者から年次進行で新学習指導要領が導入されている。それに伴い、3 観点による観点別の学習状況の評価や、新学習指導要領に即した指導計画の作成や授業実践が今後求められる。しかし、「英語以外の外国語」を担当している教員の場合は、発表者のように非常勤講師として働いていることも珍しくなく、その場合は新学習指導要領に関する研修を受ける機会や情報を得る機会が限られている。そのため、年間や単元の指導計画の作成や、授業の実施、評価方法について試行錯誤しながら手探り状態で進めている人も多いのではないだろうか。

発表者は、慶應義塾大学外国語教育研究センターが取り組んでいる令和 4 年度「教員養成機関等との連携による専門人材育成・確保事業（グローバル化に対応した外国語教育推進事業）」に拡大メンバーとして参加した。そこでは、当プロジェクトが開発した「逆向き設計」に基づいた指導案フォーマットを用いて、実際に年間・単元指導案を作成し、パフォーマンス課題を含んだ研究授業を実施した。

本発表では、このプロジェクトで学んだことの実践結果として、埼玉県立坂戸高等学校におけるスペイン語の授業の例について報告する。本報告により、高校の外国語教員が新学習指導要領に準拠した授業を検討する際の参考になることを期待したい。

2. 「逆向き設計」とは

高校の外国語教員が年間指導計画を作成する場合、まず教材を選定し、その教科書の内容が終わるように年間及び単元ごとの指導計画を立てることが多いのではないだろうかと思われる。そして単元ごとに文法項目等の理解を確認して授業を進めていくことが一般的ではないだろうか。

逆向き設計では、上記の方法とは異なり、まず年間目標を設定し、そこから逆算して単元ごとに必要な指導や評価の計画を組んでいく。そして各単元にはパフォーマンス課題を設け、単元ごとの目標が達成できているかを評価していく。この逆向き設計では、各単元における学習項目を何のために学び、それらを通して生徒は何ができるようになるのかがより意識される。

3. 年間及び単元の指導計画の作成、及び実践

発表者は上記の逆向き設計に基づき、はじめに年間目標を設定した：「スペイン語の言語的特徴を理解し、スペイン語による 4 技能の言語活動を通じて、基礎的なコミュニケーション能力の育成を図る。また、スペイン語が世界で広く話されていることを認識し、世界に対してより広い視野を養うことを目標とする」。

そして、この年間目標を、新学習指導要領で掲げられている 3 つの柱である「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の観点ごとに細分化した。

次に、各単元においても同様に、3 つの柱を軸として目標を設けた。例えば、「スペイン語で日本の有名人やアニメを紹介しよう」という単元では、4 技能の中でもとりわけ「話す」と「書く」能力を重視し、「知識及び技能」では、不規則動詞 **TENER**、性格や容姿を表す形容詞、及びキーボードによるスペイン語の入力を理解し活用できること、「思考力、判断力、表現力等」では、場面や状況に合わせて知識及び技能で身につけたことを適切に活用すること、「学びに向かう力、人間性等」では、インターネット上でスペイン語が広く使用されていることを理解し、スペイン語を用いて主体的に発信する態度を養うことを目標とした。

加えて、この単元における目標達成を確認するために 2 つのパフォーマンス課題を設定した：①メキシコ人の ALT に向けて日本の有名人を口頭で紹介する、②SNS を想定し、世界の人々に向けてキーボードで日本のアニメの情報を入力し、発信する。また、単元の評価の際も 3 つの観点に基づいて、単元目標が実際にできているかの評価を実施した。

4. 生徒の感想及び、発表者の感想

このように逆向き設計に基づいた指導計画の作成及び授業実践の結果、生徒の単元振り返りシートからは「ペーパーテストをするよりも実際に自分で考えた文を使う方がより身についた気がした」「タイピングでスペイン語入力ができ嬉しかった」といった感想が伺え、生徒自身が授業を通してできるようになったことを実感していることが確認できた。加えて、「ネットでスペイン語のコメントを意識して見てみたい」「機会があったら実際にスペイン語でコメントをしたい」といったコメントもあり、生徒が授業外でもスペイン語に触れようとする態度も見とれた。

この逆向き設計に基づいて指導案を作成することは、一見難しく負担になるように思われる。しかし、授業の実践及び評価の際に、生徒は何ができるようになったのか、ということがこれまで以上に明確になり、何に基づいて評価すれば良いかも先に設定されているため評価で悩むことも少なくなった。今後はこの逆向き設計をうまく活用して新学習指導要領に即した授業や評価を実践していきたい。